

# 歯科保健医療の現状と課題

平成19年3月

厚生労働省

医療法等の改正の施行について  
(歯科医療に特に関係する項目)

- ◎ 患者等への医療に関する情報提供の推進
- ◎ 医療安全の確保のための措置
- ◎ 医師、歯科医師に対する再教育研修

◎ 患者等への医療に関する情報提供の推進

患者等が医療に関する情報を十分に得られ、適切な医療を選択できるよう支援する。

- 都道府県が医療機関等に関する情報を集約し、分かりやすく住民に情報提供し、住民からの相談等に適切に応じる仕組みの制度化
- 広告規制の見直しによる広告できる事項の拡大

### ◎ 医療安全の確保のための措置

病院等の管理者は、医療の安全を確保するため、

- ・院内感染対策のための体制の確保
  - ・医薬品に係る安全確保のための体制の確保
  - ・医療機器に係る安全確保のための体制の確保
- について、措置を講じなければならない。

### ◎ 医師、歯科医師に対する再教育研修

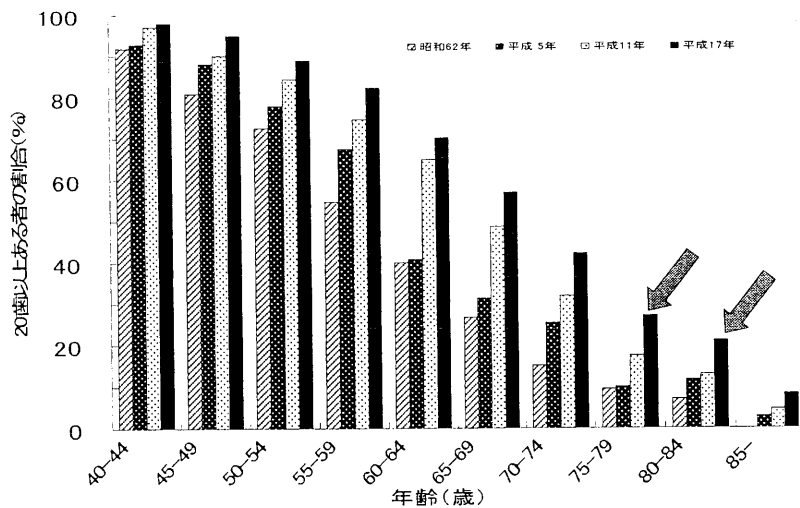
行政処分を受けた医師、歯科医師に対して、  
倫理研修(倫理の保持に関する研修)  
技術研修(知識及び技術に関する研修)を  
内容とする研修を行う。

研修の種類として団体研修と個別研修を設ける。

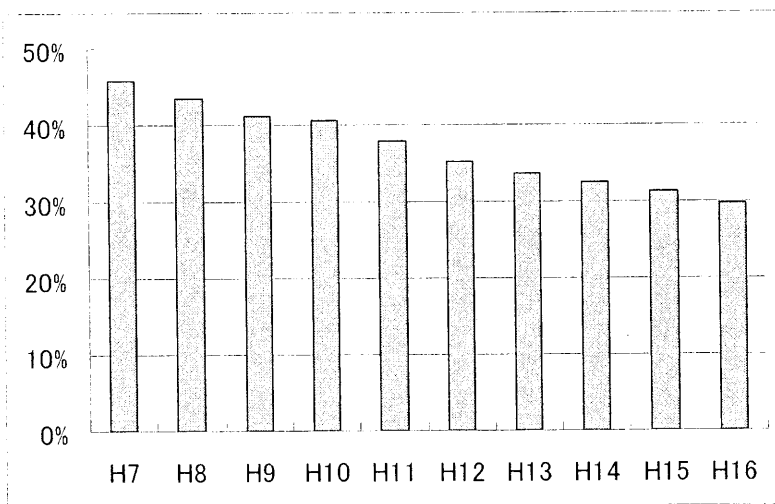
「今後の歯科保健医療と歯科医師の資質向上に関する検討会」中間報告  
(平成18年12月)をもとに作成

## 1 国民の歯の健康状態

- ◆8020達成者の増加
  - ◆3歳児のう歯のある者の減少
  - ◆12歳児の一人平均う歯数減少
- 等各種の指標で着実に向上

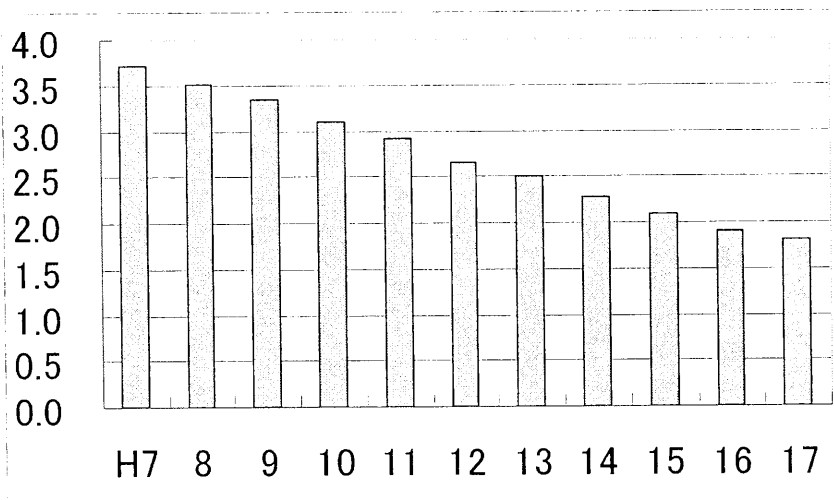


20歯以上の歯を有する者の割合  
(歯科疾患実態調査)



### 3歳児のう歯のある者の割合の推移

(3歳児歯科健康診査結果)



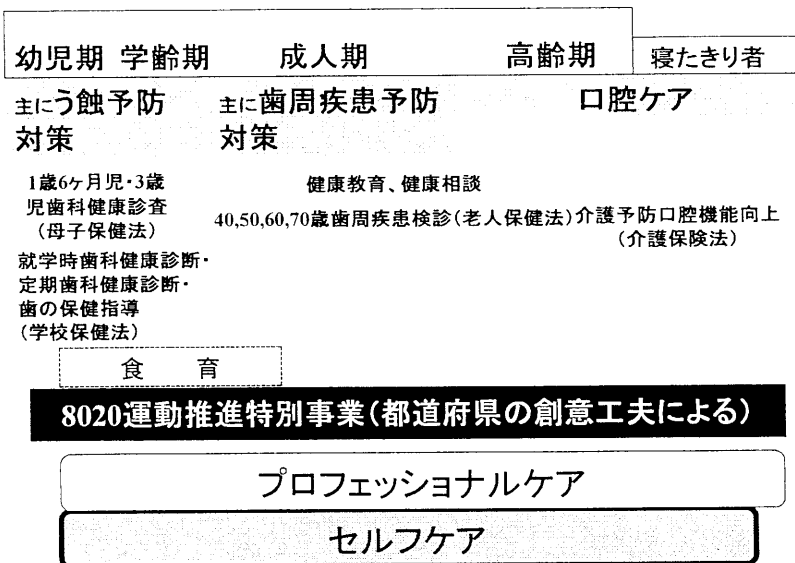
### 12歳児の一人平均う歯数の推移

(文部科学省学校保健統計)

## 2 歯科保健対策の現状と方向性

- ◆8020運動は広く国民に普及
- ◆セルフケアとプロフェッショナルケアを基本に、学校や地方自治体が事業を実施
- ◇8020運動推進特別事業は今後も各都道府県の歯科保健の中核的事業

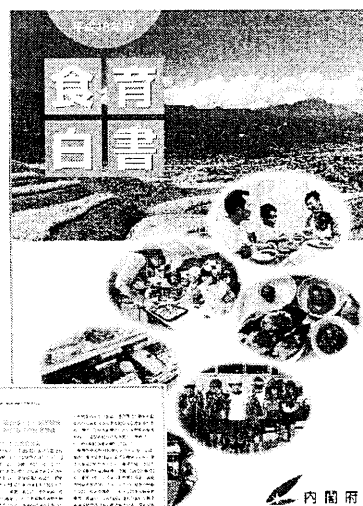
### 生涯を通じた歯科保健対策の概要



◇公益法人制度改革に伴い、歯科医師会等の公益事業として、食育、生活習慣病予防、介護予防等と連携した歯科保健医療の事業展開を期待。

◇8020運動に加えて、歯・口腔の機能に着目した新しいスローガンが必要。

◇食育推進基本計画において、「食生活を支える口腔機能の維持等についての指導を推進する。」とされており、地域で食育推進活動と一体化した事業展開を期待。



青森県、島根県、香川県での8020と食育の取組を紹介

### 3 口腔の健康と全身の健康の関係

- ◇高齢者への口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防になることは、介護予防の事業にも取り入れられている。
- ◇歯周病が妊婦に及ぼす影響や歯周病と糖尿病や循環器疾患との関係等が注目。
- ◇8020達成者は医科医療費が低いとの報告など調査研究は広がりを見せている。
- ◇厚生労働科学研究でも、研究を重ねているところ。

◆一方、研究の成果が具体的な事業にどのように結びつくのかが明確でない等の問題点。

◆歯科医師の期待が先行し、必ずしも、レベルの高い研究に基づくものではない。

#### 8020推進財団：口腔と全身の健康状態に関する文献調査報告書(抜粋)

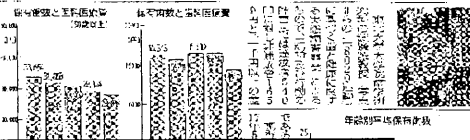
◎歯周病と循環器疾患との関連性についてはそのエビデンスは存在するものの、歯周病と循環器疾患との間に因果関係を示す研究は未だ存在しない。

◎歯周治療を行うことで糖尿病のコントロールができるというエビデンスを支持できる高い研究は存在しない。

年齢	歯数	医療費
全人口	15,102	15,432
達成者	467	640
非達成者	2,465	2,579
精神及び行動の障害	95	41
精神疾患	2,287	2,020
精神疾患の患者	1,519	640
精神疾患の患者	262	266
精神疾患の患者	1,257	374
精神疾患の患者	172	87
精神疾患の患者	1,032	2,224
精神疾患の患者	1,824	1,022
精神疾患の患者	1,303	715
精神疾患の患者	245	306
精神疾患の患者	2,287	2,271
精神疾患の患者	2,467	2,579

## 8020で医療費に格差

東北大・歯学教授らが実態調査 疾患で2倍以上の差も



80歳で20本の自分の歯を保有する「8020」達成者と非達成者で医科医療費に差があり、疾病分類ごとの平均医科医療費の比較では2倍以上の差がある疾患も見られた。

東北大学大学院歯学研究科の渡邊誠教授らの「『8020運動』に基づく歯と健康に関する実態調査事業」によるもので、「精神及び行動の障害」では達成者640円に対し非達成者1,659円と、一千元以上の差である。  
(兵庫県、香川県でも同様の報告)

### 今後の方向性

- ① 歯科関係者と他の保健医療福祉関係者が連携して具体的方策を提示するための(高いレベル)研究を推進していく必要。
- ② 研究成果が、保健医療福祉関係者、ひいては住民に広く周知・還元されるようにすることも不可欠。

## 4 今後の歯科保健医療

◇今後の歯科保健医療の予測

歯学部教授、都道府県歯科医師会長等へのアンケート結果

- ◎需要が増加する分野：予防歯科、インプラント、高年齢者歯科、審美修復等
- ◎需要が減少する分野：小児歯科、保存、補綴等
  
- ◎今後10～20年間に組み込まれる必要があると領域：検査・診断、再生医療、禁煙指導、在宅訪問等
  
- ◎歯科保健医療の「全身の健康の保持増進」への寄与：歯周病、口腔ケア、咬合、食生活、アンチエイジング、睡眠時無呼吸症候群への対応等

◎（特に、保険給付外の歯科治療は）患者の視点を重視して、歯科医師の知識・技術を確保をはじめとした幅広い対応が必要

◎インプラントのような侵襲性が大きく、高額な治療については、国民・患者の安心・納得のため歯科医師は、治療前の説明及び治療に一層の責任